

“戦後は、たった六十年しか経っていない”

# 昭和天皇と 田島道治と 吉田茂

加藤恭子著

四六上製・264頁【口絵24頁】  
ISBN 4-903174-04-2 C0095  
定価:本体2,500円+税

'06年  
4月下旬刊行

初代宮内庁長官の「日記」と「文書」から

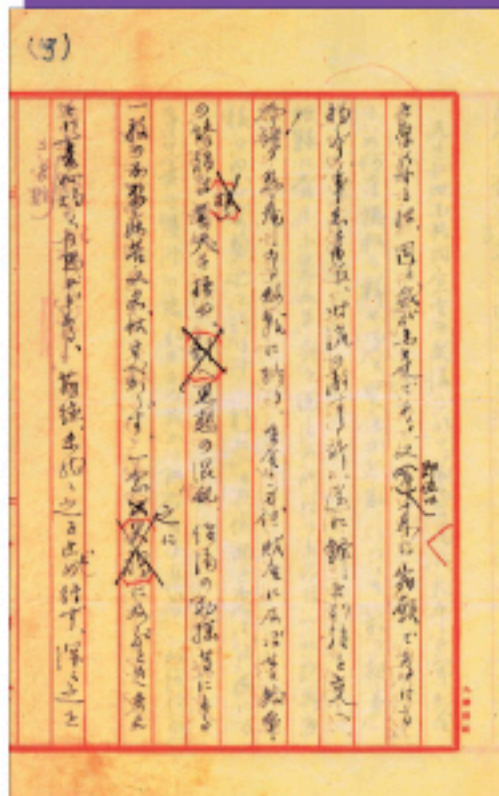
## 「戦後の原点」とは何だったのか。

衝撃の昭和史資料「昭和天皇「謝罪詔勅草稿」[朕ノ不徳ナル、深く天下ニ愧ヅ]」の発見者、加藤恭子が宮内庁初代長官・田島道治が書き遺した未発表の田島家資料を加えて読み解き、昭和天皇の真のお気持ちを伝える。

## 画期的ノンフィクション・ドキュメント!

- ◆埋もれていた資料——それが日記であれ、書簡、メモ、文書であれ——が世に出ることにより、過去の一部に角度の違う光が当てられる可能性がある。または、不明だった部分によりはっきりすることがある。
- ◆そうした資料、しかも戦中から敗戦後の日本の歩みを理解するに当って特に重要なものの一つが、田島家資料である。(中略)
- ◆占領下の日本。極東国際軍事裁判、A級戦犯の死刑執行、皇室財産解体後の皇室経済問題、天皇の退位問題、巡幸、講和条約など、田島道治とはこの激動の時代に、皇室の舵取りをまかされた人物である。——(本書「はじめに」より)

目次	はじめに/一、「田島家資料」とは/二、吉田茂と田島道治/
	三、人事問題——寺崎英成の場合/四、「秩父様事件」/
	五、人事問題——林敬三の場合/
	六、ダレスのこと——「田島日記」にみるダレスと講和条約/
	七、「御巡幸ノコト」/八、シーボルト外交局長との会談と「葉山事件」/
	九、退位問題/十、マッカーサーの解任/十一、「おことば案」に到るまで/
	十二、「おことば案」をめぐって/十三、人事問題——田島自身の場合/
	十四、「田島日記」における吉田茂と田島道治——“同志として、/
	十五、大いなる縁/おわりに



田島家資料(田島恭二氏提供)



天皇裕仁(中央—のちに昭和天皇)全国巡幸  
東京駅に九州から戻り、吉田首相ら出迎え1949.6.12 (NHK撮影提供)



撮影:松本博行

加藤恭子(かとうこうこ) 1929年、東京生まれ。早稲田大学文学部仏文科卒業。ワシントン大学修士号。現在、(財)地域社会研究所理事、[加藤恭子ノンフィクショングループ]代表。日本エッセイスト・クラブ賞受賞、文藝春秋読者賞受賞。著書「日本を愛した科学者—スタンレー・ベネットの生涯」「田島道治—昭和に「奉公」した生涯」「昭和天皇「謝罪詔勅草稿」の発見」ほか多数。